

吉永 みち子

1950年3月12日、埼玉県川口市出身。

埼玉県立浦和第一女子高等学校卒業。

1973年、東京外国語大学外国語学部インドネシア語学科卒業後、立馬株式会社に入社。日本初の女性競馬新聞記者となる。

その後、「日刊ゲンダイ」の記者となる。

1978年、株式会社日刊現代を退社。

約5年間の専業主婦を経て、ノンフィクション作家として復帰。

1983年、エッセイコンテスト「優駿エッセイ賞」最優秀作を受賞。

1985年、『気がつけば騎手の女房』で第16回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。

政府税制調査会、地方分権改革推進会議、郵政行政審議会、外務省を変える会などの委員を歴任。

2010年、前田恒彦元検事らによる大阪地検特捜部主任検事証拠改ざん事件を受け設置された検察の在り方検討会議委員に就任。



【著作】

『老いの世も目線を変えれば面白い』（海竜社）

『人生を決めた“あの時”』（光文社）

『怖いもの知らずの女たち』（山と溪谷社）

『40代。自分が変わる生き方』（海竜社）

『26の「生きざま!」』（日本経済新聞出版社）

『子供たちは甦る!少年院矯正教育の現場から』（集英社）

『オバハン流 旅のつくり方』（中央公論新社）

『どこゆく? 団塊男 どうする? 団塊女』（日本経済新聞社）

『変な子と呼ばれて』（筑摩書房）

『ボクって邪魔なの?』（小学館）

『女偏地獄』（集英社）

『晴れ晴れ更年期一女ざかりがもっと輝く処方箋』（祥伝社）

『母と娘の40年戦争』（集英社）

『老婆は一日にしてならず』（東京書籍）

『麻婆豆腐の女房』（光文社）

『気がつけば騎手の女房』（草思社）

『6ぴきと8にん物語』（日本放送出版協会）

『性同一性障害—性転換の朝』（集英社）等

神楽坂 かぐら連

牛込神楽坂で生まれ、神楽坂界隈を中心に活動をしているかぐら連です。神楽坂で阿波踊りの楽しさをおぼえ、寝ても覚めても踊ることばかり考えている連員は、今では、80名余りの踊る阿呆軍団に成長しました。

高円寺や徳島にも勉強に行き、日々、新しい踊りにもチャレンジしております。

もはや神楽坂だけでは物足りないと、夏のシーズン時には、堀切菖蒲祭り、中日黒、三鷹、高円寺にも参加し、坂のまち、神楽坂で鍛えた脚力で踊りを披露しております。

勇壮でダイナミックな男踊り、華麗でしなやかな女性の女踊り、そして可愛らしい中にも凛々しさを感じる小かぐらが踊ります。皆様の笑顔が何よりの声援です。お楽しみください。

